イムマヌエル教報

2016. 2

1947年7月1日第三種郵便物認可　2016年2月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.835

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

あなたは×で、わたしは○

総務局長　北田直人

「なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください』などとどうして言うのですか。見なさい、自分の目には梁があるではありませんか。……まず自分の目から梁を取りのけなさい。」

（マタイの福音書七章3～5節）

＊

▼十三番目の美徳

ベンジャミン・フランクリンは十三の美徳を定め、毎週違った美徳を選んではそれに励み、犯した過ちは毎日すべて記録しました。十三週ごとにまた最初から始めて、一年間でリストを四巡するようにしました。何十年もそのようにして、十三週を清らかに過ごせるよう奮闘します。進歩していくに連れ、別の欠点と奮闘している自分に気づきます。「自然感情の中で、恐らくプライドほど征服しがたいものはない。プライドを嫌悪せよ。プライドと戦え、できるだけ制御せよ。プライドはそれでも生きていて、すきあらばのぞき込み、姿を現わす。……たとえ私が完全にプライドを克服したと確信できたところで、今度は自分の謙虚さを誇っているに違いないのだ」（フィリップ・ヤンシー『だれも知らなかった恵み』）。彼が十三番目に定めた美徳は「謙虚さ」でした。彼は自分の目の中の梁に気づくことができましたが、それを取りのけることができたのでしょうか。

＊

▼あなたは×で、わたしは○

キース・ドルーリー師が、ある教会学校のクラスに出ていたとき、そこで〈正当なプライド〉と〈罪深いプライド〉の違いについて議論がなされていました。一人の人が次のように議論を締めくくります。「それは簡単なことさ。〈あなたの〉プライドは罪で、〈私の〉プライドは正当なのさ。」彼の発言はみなの爆笑を誘いました。

ドルーリー師はさらにこう記しています。「私たちは兄弟や姉妹のプライドは非難する反面、自分自身のプライドは簡単に合理的に説明します。ですから、私たちはある程度の自尊心、働きにおける尊厳、他の人に対する満足などを認めることができる反面、常にそうした〈健全なプライド〉でさえ不純なものとなり、利己主義となり罪深いものとなり得ることに気をつけていなければなりません。」（キース・ドルーリー『きよい生活をめざして』）

「あなたは×で、わたしは○」というのは、プライドに限らず、さまざまな場面で見聞きします。振り返ってみて、自分も×なのに、そのことを忘れてしまって他人のことをあれこれ言ったり、あとでそのことに気づかされたりしたことがあったことを思い起こします。「まず自分から」とおっしゃった主のことばを改めて心に刻みたいと願っています。

目次

あなたは×で、わたしは○……北田直人……1
第71次年会に向けて、神学院リトリート……2
創立70周年考察と提言、関東新年聖会報告……3
海外トピックス、国内局コラム、eラーニング……4
北日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

Immanuel

第71次年会 課題克服のために

国内教会局長　内山 勝

このたびの年会の特色をあげるならば、それは3つの研修を予定しているということでしょう。各担当者から短く紹介します。

＊

①聖なる教会を目ざして　（内山勝）

人権委員会が数年かけて、「聖なる教会をめざして～ハラスメントを題材として」というパンフレットを作成しました。先ず牧師たちが1年間かけてここから学び、正しく理解した上で、教会員の皆さまに配布して、教会のご理解をいただきたく願っています。年会では、このパンフレットが出されるに至った経緯と、その内容を正しく理解していただけるように、ご一緒に学びたいと願っています。

ハラスメントのないきよい教会こそ、主の願っておられる教会であると確信しているからです。

②危機対応　（岩上敬人師）

教会と牧師が危機対応の準備ができているかは、想像以上に大切です。危機というのは、災害（自然災害や人災など）によって、人が心的外傷を受け、他からの支援を必要としている状態です。

危機対応でまず考えなければならないことは自然災害です。地震や洪水など教会員や地域の方々が広く危機に直面したとき、教会や牧師に何ができるのかを考えます。

もう一つは、交通事故、病気、死別などのより狭い、個人や家族単位での危機も考える必要があります。実際的な危機対応だけでなく、心的外傷を受けた教会員や地域の方々への心のケア、スピリチュアルケアも必要になります。今回の研修では危機対応の本質的な部分を学びたいと思います。

③交わりの神学　（岩上祝仁師）

年会時に日本伝道会議で行われるコイノニアの研修会を行っていただけることになりました。この研修は、「教会」の中の「交わり」をもう一度、神学的に見直して、聖書的な交わりの神学の構築と実際的な「交わり」体験を行おうとするものです。

具体的には「交わり」についての講演、その後グループに分かれてトピックに基づいてのディスカッションを持ちます。日本伝道会議の「コイノニア」でのネットワーク作りの模擬体験となるようにも計画されています。

＊

年会でのこの営みを通して、各教会での交わりの理解が深められ、実際が整えられ、伝道会議の備えにもなる研修会を目指します。

BTCリトリート「冬の聖会」

堺教会　蔦田聡毅

昨年末も12月28～30日にかけて、第三回BTCリトリート「冬の聖会」が、聖宣神学院を会場に開催されました。

第一回から変わらず掲げられてきたテーマは「主の召しに応えて～献身・召命・職業選択」であり、焦点の絞られた聖言の語り掛けに応答する時。「聖会」と銘打たれてはいますが、中身は二泊三日の「宣教会」のようなものです。

信徒・牧師の別なく、主の愛に応える献身者として生き、自分に対する主の召命は何か、心を探り、行く道を展望する場所です。また年の瀬でもあるので、一年の歩を振り返りながら静まって、新年に備えるために参加される方も毎年おられるようです。

さて今年は北海道・東北・関東・近畿・中国・九州と、全国各地の兄姉の他、滞日中の宣教師や他教団の参加者もお迎えしました。宿泊込みの全日参加者だけでなく、今年は夜の聖会をオープンにしたので、その方々も加えると約40名が参加されました。

聖会等の全体集会とプログラム全般の司会は川村和臣師が担当。

第一夜は竿代照夫師がエレミヤ一章から「まだ若い、と言うな」、第二夜は田中進師が詩篇二三篇から「主はわが牧者」と題して基調となるメッセージを語ってくださいました。この聖会では、説教者がご自分の証しを含めてお話しくださるようにお願いしています。今年も貴重なお証しをうかがえたことは感謝でした。

二日目の早天では神谷光一師がヨシュア五章から「わが主は、何をそのしもべに」、三日目の早天は吉村和記師がイザヤ三〇章から「振り向けば、いつもあなたが」との題で、朝に相応しい霊想と祈りの時を導いてくださいました。

丸一日過ごす二日目の午前は、「神学院ナマ体験」として、河村

従彦院長による授業「イエスさまってどういう方～奉仕の基礎としてのキリスト論～」の学びの時。DVDを用いたり、小グループのディスカッションがあったりと、多彩で新鮮な学びのひと時でした。

続くチャペルも院長先生の司導で創世記一三章と二二章より、「かけてしまう瞬間～人の危うさ、神さまの確かさ」とのメッセージ。午後は委員の4牧師がパネラーとなり、多くの質問に答える形で、牧師になるまでの経緯、なってからの戦いや歩みについて、赤裸々な証しを聞く時を持ちました。

三日目の午前は聖会Ⅲ、イザヤ六章から「誰がわれわれのために」（蔦田聰毅）に続き、閉会礼拝と証し会をもって終了しました。全集会から少なくとも一人が聖言を捉えておられたことに、主が全てを祝し導かれたと実感しました。

背後のお祈りと、陰にある多くのスタッフのご愛労に感謝しつつ。

教団創立70周年　青年大会を振り返り

全国アンケートの考察と提言6

信仰生活・教会生活の中で「職業」について

青年企画委員　下村聖実

〝職業〟、働く環境が私たちに与える影響は計り知れません。事実、先のアンケートにおいても、直近に就職を迎える若者から退職を迎える世代まで、様々な意見が寄せられました。

▼聖日を重んじるべく、「日曜日に仕事がある職業は極力避けるべき』と思うが、「現実は厳しい」。

▼私たちも「日曜日に多くの人々が働いているから礼拝出席ができる」、礼拝の本質として「場所、時間を問わず、どなたに対して礼拝を捧げるかが重要」。

▼職業事由のみならず、病気等で身体的に礼拝出席が難しい信者のために、「礼拝映像をインターネットで配信する」、「日曜日以外に礼拝を持てるようにする」……等。

＊

いずれのコメントも、このテーマが単なる〝職業〟という範囲を超え、信仰そのものに大きな影響を及ぼす事であると感じている方が多くおられることの表れです。

私は２０１４年４月に就職しました。新米社会人ではありますが、一般社会における考え方と聖書的な視点との相違を痛感しています。同様の戸惑いを感じるクリスチャンは多いのではないかと感じています。特に、誤解を招くことを恐れず表現すれば、クリスチャンとして〝ふさわしそうな〟職業、つまりは自他共に神様のため、人のためと認められるような職業と比べ、私が就職したような利益・成果至上主義である企業や団体に所属することになったクリスチャンは、この選択が果たして本当に御心だったのかと、一度は壁にぶつかるのではないでしょうか。

＊

一方、クリスチャンには〝不向き〟であると言われるような業界においても、神様の不思議な導きにより職場のクリスチャンで集まる恵みを与えられたこともあります。それだけでなく、不安定かつ波風の多い社会人生活の中で、クリスチャンの価値観が多くの同僚の興味関心を惹きつけたことは、私にとっても大きな驚きでした。このような恵みが味わえることも、民間企業に就職した醍醐味であると感じます。

＊

しかし同時に、社会の大きな渦の中に飛び込むことは、信仰生活における大きなリスクにもなり得ることを痛感した2年間でもありました。私自身以上に、職場という階層組織の中で、神様以外の〝上司〟を持ち、信仰の良心が揺るがされる苦く辛い体験している社会人が数多くいるのではないだろうかと感じます。日曜礼拝に出席できないという時間的な制約に留まらず、職場での経験から教会との距離を置くようになった社会人に対するケアを教会・教団挙げて行うことを願っています。それが若者を教会に留まらせ、結果信仰に基づく家庭形成、教会形成に大きな益となると考えるからです。

＊

聖書に出てくる多くの信仰者は、社会情勢に翻弄されながらも、それぞれの場で信仰を育みました。不本意な形で導かれた場所においても神様への信頼を失わなかったヨセフ、権力を盾に大きな失敗を犯しながらもその失敗を通して神様の祝福を経験したダビデ、異教の国で神様を見上げ続け、賜物を大胆に発揮し社会的に大きな成功を納めたダニエル、イエス様の招きに応じ即座に舟も網も捨てて従ったペテロ、宣教師として世界中を巡りながらも天幕作りで生計を立てたパウロ、これら先人の物語を通して神様は多くのことを私たちに語りかけて下さいます。

＊

本意、不本意を問わず、どのような職業を選択したとしても、その選択の背後に神様への信頼と祈りがあり、日々の仕事に神様の臨在を見出すことができれば、その職場は祝福で満ちた場になるのではないでしょうか。

関東４教区合同 新年聖会……

「きよくなりたい」をテーマに

＊＊＊

富士見台教会　野田 禎

穏やかな日を迎えた1月11日（月・成人の日）、関東4教区合同新年聖会は中目黒教会を会場に行われました。

聖会のテーマは「聖くなりたい」で、講師は、聖会、宣教会とも藤本満先生でした（聖会３６５名、宣教会２１８名）。聖会で神奈川教区の合同コワイアの賛美、代表より新成人への祝福のお祈りがあり、Ⅱ列王記五章1～14節から、「きよくなりたい」のメッセージがありました。①聖くなりたいという思いがあるか、②どのようにして達成することができるか。③神さまのシナリオに自らの人生を委ねることが語られました。

ナアマンは聖くなりたいという思いを持ちました。自分のシナリオ通りに進められることを願っていましたが、そのように進められないので怒ってしまいました。自分の方法を捨て，神さまの方法に身を委ねること。このようなことができたら明け渡すというのではなく、神さまの招きの導きに委ねることの幸いが語られました。

宣教会では、帰国中の豊田恭子宣教師、根廻恵子宣教師から挨拶があり、藤本先生からⅡ列王記一三章14～19節より「主の勝利の矢」という題でメッセージが語られました。ヨアシュ王は頼みの綱である預言者エリシャを病のために失いそうで、引き離されるという危機的な状況にいました。①大切な場面、②神に信頼する信仰、③受け止めるものの情熱、が語られました。私たちは信仰のバトンを渡される時を迎えますが、躊躇し、とてもできないと思ったりしてしまいます。けれども、神さまは主の勝利の矢を渡してくださり、手を重ね、それをどう使うかを教えてくださる、祈りによって神中心の、神に信頼する信仰者となることが語られました。神さまの恵みに応答し献身を新たにした幸いな宣教会でした。

海外トピックス

■世界規模の「宗教戦争」再燃に懸念も

フランスの首都パリで11月13日、イスラム過激派組織『イスラム国』による連続襲撃事件が発生した。世界史を揺るがした数々の「宗教戦争」の再燃を示すような動きも見られる。

キリスト教世界も大きな衝撃を受けている。教皇フランシスコは、「このようなことを人間が行うとは理解できない」と述べ、特に宗教が正当化の理由になってはならないと強調。犠牲者や家族ら「全ての人々のために祈る」と語った。世界教会協議会は、パリとベイルートにおけるテロ攻撃を強く非難。中東教会協議会は、ベイルートで起きた爆破事件に対し、同情と怒り、そして同国の平和と安定のために働くという変わらぬ決意を、WCCと共に表明した。

ルーテル世界連盟も「ベイルートとパリの襲撃における大規模な命の喪失を非難する」と公式サイトで発表。英国国教会ジャスティン・ウェルビー・カンタベリー大主教は、パリのテロ事件を「深刻な悲劇という絶望的なニュース」とし、「被害を受けた人たちと共に泣き、助けと正義を求めて祈る」と述べた。世界メソジスト協議会も「このテロリストによって動機づけられた多発的な爆破や発砲、そして人質をとるパリ襲撃を非難する」などという声明を発表。

世界福音同盟は、テロ攻撃を非難するとともに、フランスとレバノンのために祈るよう諸教会に呼び掛けている。

■聖書に登場するヒゼキヤ王直筆の印を発見

イスラエル・ヘブライ大学の発掘チームが12月2日、聖書「列王記下」に登場するユダヤの王ヒゼキヤの直筆とみられる王印を、エルサレム旧市街のシルワン地区にある古代のごみ捨て場で発見した。1㎝弱の長さの粘土に書かれたもので、古代ヘブライ文字と、2つの翼をもつ太陽が刻まれているという。ユダ王国のヒゼキヤ王の統治は紀元前700年ごろ。エルサレムを大都市に作り上げることに貢献し、偶像を撤去したことで知られる。

ヘブライ大学のエイラト・マザル氏は「イスラエルまたはユダヤの王の王印が科学的な考古学の発掘で発見されるのは初めて」と述べている。

（平瀬聡樹）

国内教会局から

キリストの苦しみの欠けたところ

―教会総会を越えて―

教会総会を越えてお互い新しい歩みに踏み出しました。祝福と結実をお祈り申し上げます。さて「キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです」とは教会に仕える聖徒の覚悟を表した聖言の一つです（コロ一・24）。この「苦しみ」とはしばしば「患難」と訳されることばで（ローマ二・9、Ⅱコリ一・4他）、キリストのからだが直面するあらゆる課題や困難、逆境や迫害を含めたものです。それら故に教会は痛み、疲れ、悲しみ、そのときにかしらであるキリストが共に痛みを受けなさるとパウロは理解しています。「キリストの苦しみの欠けたところ」とは、そのような教会の欠けたところを指しています。教会総会の中で私たちは教会の恵みと豊かさと共に、改めて教会の欠けや弱さをも見出したのではないでしょうか。この年お互いに身をもって不足を補おうではありませんか。（蔦田崇志）

eラーニング信徒講座……

信徒の皆さまへ
聖書の学びへご招待

eラーニング担当　大津博子

いよいよeラーニング信徒講座がはじまります。

日々、お仕事やご家庭のこと、学生の方は学びにと、お忙しくされている信徒の皆様へ、あらゆる機会を用いて、なんとか『霊の糧』となるものをご提供したい！と企画されました。

eラーニングは、パソコンやスマートフォン、タブレット、そしてインターネット環境さえあれば、場所や時間などは問いません。

動画や資料などは週ごとに、すべてコース上にアップロードされます。それらをよく読んで、観てから、受講生同士はニックネームで、インターネット掲示板を介してディスカッションをします。ですから従来の通信講座のように一方通行ではありません。なによりニックネームであることによって垣根が取り払われて、とても自由な意見交換がなされます。霊的な気付きや、励ましや恵みも格段に受けやすくなることでしょう。講師からも随所で発言があり、偏った議論にならないように配慮されています。その他、講師への質問コーナーも設けられていますので、疑問はそちらで解決できます。

今まで、eラーニングは牧師の学びが中心で、信徒の受講費は1万円でしたが、信徒講座は、8千円としました。

もちろん牧師先生方や神学生もご受講いただけます（補助有り）。

第一期＝2月14日開講

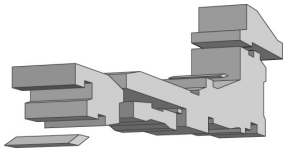
「イエスのたとえ話」

講師＝藤本満師（8週間＝8千円）

以降は、岩上敬人先生の「使徒の働き」、河村従彦先生の「神様イメージ」他には、伝道関係のものや「聖化入門」「夫婦親子関係・家庭問題」「異端カルト問題」「聖書の語る女性観」なども予定されています。

▼お問い合わせは、elearning1308@gmail.com（大津まで）

国内教会局スクエア



北日本ブロックの近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー　川嶋 直行

「キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。」（コロサイ一・24）

北日本ブロックは、北海道教区、東北教区、北関東教区の3つの教区から構成されています。1道9県の広い範囲に、24教会が宣教の働きを展開しています。3・11東日本大震災以降、東北地方の人口減少率は過去最大となりました。

福島県は、原発事故の影響を今も受け続けています。冬は、雪や寒さの戦いが加わります。牧師の高齢化、人口減少、取り巻く環境は厳しくありますが、各教会は牧師と信徒の良き協力のもと、希望を持って善き信仰の戦いを戦っています。北日本ブロックの諸教会のために、お祈りと、サポートを感謝いたします。神なる主が、必ずやその真実な働きを祝してくださると信じています。以下に、各教区主事から寄せられた今年の展望を記します。

■北海道教区

5月に春の教区会を恵庭市の施設で持ちます。また北海道聖化大会（JHA）に参加します。8月には夏の教区会と「北海道ポプラ聖会」（講師：岩上輝雄師）が札幌教会を会場に持たれます。北海道教区の3教会は、主の恵みにより、相応の進展が見られ感謝しています。結婚問題は、主のみ助けを仰ぐ大きい課題です。3名の現牧師は後期高齢者となります。牧師の健康と教会の今後の導きのために祈っています。秋には「第6回日本伝道会議」に各教会は参加する予定です。期日は未定ですが、北海道の福音派による「教職者大会」が計画されています。

■東北教区

かつての三本木教会時代からの旧会堂跡地売却問題がようやく果たされ、名実ともに「新生・十和田教会」の働きが開始されました。1993年に開拓された福島教会は、今後新たな形態の導きを求める年となりました。これまで労された諸先生と愛兄姉方には、天にその働きが覚えられていることを思います。山形教会・釣稔先生は、この数年大きな健康的課題に直面されました。しかし先生も教会も強められ、教団の「伝道サポートシステム」を積極的に組み込み、この年の活動に入りました。さらにこれとは別に「秋田教会・鶴岡白山教会」も連携してこのシステムを活用することになり、外部からゴスペル・シンガーを招く予定です。東北聖会は、今年から本来の「東北聖会」に戻ります。今年は教区北部に位置する岩手県で開催します。教区南部に比較して小規模な教会が多い北部地域にとって、この聖会が、教区・教会現状打破と前進につながることを期待しています。

■北関東教区

2016年度、北関東教区では3月29～31日に春のバイブルキャンプを行います（会場は、さしま少年自然の家）。今年は東京フリーメソジスト教団桜が丘教会のユースパスターの星加優和先生を講師にお迎えします。主に中高生グループを担当してくださいます。子どもたちの救いと霊的成長のためにお祈りください。10月9～10日には北関東聖会を開催します。講師は梅田登志枝先生です。今年は日光オリーブの里を初めて会場として使用します。新しい会場で霊的祝福を待ち望んでおります。高崎泉教会では秋に伝道サポートシステムによる特別集会を予定しており、教区で協力をしていきたいと願っています。教区の一つ一つの教会が互いに励まし合い、支え合いながら、教区として成長していきたいと願っております。

燭台

路線バスの旅

▼羽田を発って一時間半、着陸態勢に入った飛行機の窓から見えてくるのは海岸沿いに僅かに平野を残すのみで全面森林に覆われた南九州です。そして入り組んだリアス式海岸線は風光明媚な観光地です。降り注ぐ太陽に真冬でも観葉植物が外に出せ、ブーゲンビリアが咲いています。観光案内ならこれで済むのですが、地方での生活は高齢化で車を手放した身にはかなり苦労です。団地のバスは一時間に一本という時間帯もあり、電動自転車を駆使し、老人パスや、タクシー、筋力アップのためになるべく足を使い……という具合です。▼私はここ数年、教区会や聖会出席には長距離バスを使っています。何枚もの路線の時刻表を付き合わせて乗り継ぎをします。数分違いで出発してしまうバスを「そこをなんとか」と掛け合ったのですが、「時刻表は変えられません」と営業所でにべもなく断られ次の便を一時間近く待ちました。九州山脈に27本ものトンネルを掘り、随分時間は短縮されました。三時間余の高速バスの車内では活字を読むと気分が悪くなるのでDVDを観ることもあります。「海猿」を見終って、陽の光が降り注ぐバス停に降りたった時はいきなり海中から浮かび上がった感じでしたし、ある時は臓器移植の手術室から生還した気分になったこともあります。知らない町のバス停に佇んでなかなか来ないバスをじっと待ち続ける旅は否応なく「待つ」ことを受け入れさせます。見慣れない風景の中を走り、その土地の人々が乗り降りし、やがて終点に着く頃には乗客は私一人になったりします。▼しかし、ようやく目的地の教会に辿り着くとき、そこに集う方々の中に活き活きと働いておられる主ご自身を見出すのです。そこは人生の路線バスを乗り継いできた方々にとって備えられていた教会であり、天国への入り口となっています。海と山が近く、猿の群れが出没し、見渡す限り畑が広がる南九州の地、限界集落を抱えて人口流出が続き、新幹線など見たこともなく、単線の日豊線に沿って昨年ようやく対面走行の高速道路が開通したばかり。しかしひとりの人が辿って来た人生を顧みて備えていて下さる主を知らされ、心を熱くさせられるところでもあります。（高梨恂子）

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

マケドニヤからの招き

世界宣教局
蔦田敬子

「私たちの間でキリストのためになされているすべての良い行いをよく知ることによって、あなたの信仰の交わりが生きて働くものとなりますように。」（ピレモン6）

新しい年を迎えて1か月。各教会では、教会総会を越えて新しい年度の働きに踏み出しておられることでしょう。

世界宣教局では昨年は宣教師の出入りが多く、全国の多くの教会に巡回を受け入れていただきました。心から感謝申し上げます。宣教師、宣教地に直に触れる機会として、帰国した宣教師を迎えてくださることと共に、宣教地を訪れるという方法があります。宣教局では、1997年以来、全国の教会からの希望者と共に宣教地を経験する宣教訪問団を実施してきました。今年の目的地は台湾です。現地の状況に合わせて日曜日を中心とした短期の訪問を世界宣教局主催で二回計画しました。

宣教訪問団に参加された方々の感想や証詞を伺うことは恵みです。直接に見聞きする宣教地と宣教師の働き、行かなければわからない空気、音や匂い、臭いなど、そして現地の方々との忘れられないお交わりが、その方の信仰とその後の生涯にどのような影響を与えるものであったのかを聞かせていただき、共に主を讃美することができます。それと共に宣教訪問団には、現地の方々に残してくる影響というものがあります。日本から宣教師を迎え、しかし日本という国や、宣教師の背景となっている教会と触れる機会のなかった方々にとっても、ある意味で衝撃的な経験となり得るわけです。単なる異文化の出会いとしても興味深いことかもしれませんが、それが文化を越えて同じ信仰をもつ者同士の交わりであることを思うと、そこに計り知れない価値をみることができるのではないでしょうか。

信仰の交わりは、いつも双方向です。受けるばかりと思っている人も、気づかないうちに多くのものを与えていることがあります。お互いの中に、そしてお互いの間に働いておられる主ご自身をお認めするとき、交わりを通して信仰の働きは豊かにされ、活発にされていくものではないでしょうか。

既に何人かの方が台湾訪問の申し込みを検討しておられることを伺い、感謝です。教会や教区単位でも実施していただけますが、局主催の六月分の申し込みは今月末が締切です。この機会にぜひ！

BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子＊2016年1月4日

「この民全体のためのすばらしい喜び……あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」（ルカ二章10～11節）

2015年を無事締めくくり、主の恵みの中で2016年を迎えることができました。30年以上過ごしながら、未だに暑さの中の正月がしっくりこないのですが、生まれ育った日本の習慣で元日にはお雑煮で新年をお祝いすることができました。移住者の方々の口癖ですが、住めば都で、大みそか12時になったとたん一斉に花火が打ち上げられるお祝いの仕方にすっかり慣れてもいます。今年はいよいよ私たちにとっても、教会の兄姉にとっても大きな変化を経験する年になり、神様の特別な憐みとお導きを祈り求めています。

暮れの20日には、クリスマス・プログラムとして、特別礼拝、洗礼式、祝会、そして会食をしました。恒例のクリスマスプログラムは、午後5時に洗礼式が行われ、2人の兄弟と3人の姉妹の5人が祝福のうちに洗礼の礼典にあずかることができました。以前は近くの川か知人の別荘の池などで洗礼式をしましたが、この数年、安全を図って、センターの庭に大きなビニールプールを置きそこで行われるようになりました。この日は真夏にもかかわらず、2～3日前から気温が下がり、水が冷たくなるといったハプニングもありましたが、5人それぞれ、信仰を持つにいたった証しをしました。その中の一人は25年ほどセンターの諸集会に出席していましたが、罪がよくわからず、洗礼を受けたいと思いながら20年待ったという姉妹もいました。5セッションの洗礼準備会、文書の証し、面接など十分に用意された洗礼式だったと思います。一番の年少者MJ姉はもうすぐ20歳の大学生。「今までは周りの友人たちのように、将来何をしようか、どうなるのかといつも心配していたけれど、イエスさまを信じ救われて、すべてを主にお任せして、神さまの御旨に従うことにしたら、心配する必要がなくなり、とてもうれしいです。」との証しは、聞いている人の心を打ったようでした。

礼拝では、今年とこれまでの働きの締めくくりとして、「与えるクリスマス」と題して、ルカ二章8～20節から邦夫がメッセージを取り次ぎました。使徒の働きの二〇章35節「受けるよりも与える

ほうが幸いである。」この30年私たちがあらゆる角度から、身をもって示し、教えてきたメッセージが繰り返し語られました。

ボリビアは、国としても、これまでのように他国から援助を受ける国から、自分で立っていく国、そしてやがては他の国を助けることのできる国になろうとしています。わずかですが、ボリビアから日本や東南アジア、インドに宣教師を送っている教会も出てきています。宣教師の手から離れて、大きなビジョンを持ち、広い世界に羽ばたく教会に成長してほしいとの願いが、この説教には込められていました。クリスマス祝会は家族単位で、証しや讃美、寸劇、楽器演奏などを披露しました。

去年一年間の、お祈りとサッポートの数々を心から感謝しています。■

（写真は洗礼式の様子です）

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2016年1月6日

まず、看護師免許の合否発表のため、お祈りをありがとうございました。裁判沙汰が絡んでいるということで、いつ決着が付くのか皆目見当が付きませんでしたが、クリスマスの少し前に、ついに発表がありました。今年もテヌウェクの看護学校は全員合格、中には成績優秀者も含まれ、御名を崇めて感謝しています。

卒業式は2月に決まり、その前からでも働くことが出来るため、手術室は1月1日までの欠員から、さっそく新卒者のお世話になり、大変助けられました。

今年もクリスマス近くに近隣の孤児院を訪問し、いっしょに遊んで特別なごちそうを食べ、短いメッセージと讃美歌などでクリスマスをお祝いしてプレゼントを贈る、という企画が幾つかなされました。そのためのギフトを探しているということで、IGMの教会や個々人からお預かりして貯めていた手作りのバッグや鉛筆などの文房具類を提供いたしました。近くのボメットの町からも、それぞれ扱っている商品を無償提供したところがあったようです。他の宣教師方が購入されたものも合わせて、棒付きキャンディーや歯ブラシ、コップなどがプレゼントされたようです。主任不在中の平日になされたことから、プレゼントの詰め合わせや当日の同行はできませんでしたが、「プレゼントが一番喜ばれた中で、バッグが一番喜ばれた！」と感謝の報告とともに写真を頂きましたので同封します。

「嬉しい楽しいクリスマス」と讃美歌がありますが、皆が「メリー・クリスマス！」とうきうきしている中、クリスマスは家族親戚が集まり教会で特別礼拝がある時とあって、帰省したいスタッフも多く、当日前後の勤務者確保が毎年課題となります。移動が多いため、逆に交通事故が増えたり、人によっては飲酒がらみで「お祝い」して傷害事件に至ったりすることもあるので、最低限でも人員の確保が必要になります。クリスマスを祝ったり家族で過ごしたりがどうでもよくなるのもまた困ったことですが、安息日に穴にヒツジや牛が落ちた時にどうするか、のたとえを思い出します。どうしても人員確保ができなかったということで、集中治療室や準集中治療室の主任が勤務していたり、クリスマス当日の総師長室担当ナースが「勤務しながら良いクリスマスをお祝いしていたよ」と穏やかにほほ笑んでいたりするのに教えられながら、最後の最後まで確保できなかった25日の夜勤の一人を担当することになりました。それまでもあまり十分休養できていなかったため、体調が万全でなかったのが本当に申し訳ないことですが、「主を待ち望むものは新たに力を受けてのぼる」の讃美歌とともに、なんとか支えられ感謝でした。それでも最近はクリスマス時期の勤務を志願するスタッフもあり、クリスマス前夜と当日朝の礼拝には出席できたのは以前よりもずっと恵まれたことでした。

救われた私たちにはうれしい楽しいクリスマスですが、イエスさまの側はどうだったのだろう、とイザヤ書五三章を思い返す時ともなりました。

前述の合格発表のおかげで新年前後の勤務者が確保できたことを確認できてから出席した大晦日の礼拝では、ようやく少し落ち着いて昨年の今頃から半年はまだ日本にいた期間も含め、本当に多くの感謝があったことを思いめぐらすことができました。ゆっくり休ませて頂いた新年の連休を越えて、5日に主任が長期休暇から戻り、それも感謝しながらの今月の報告です。

「なんだこれは！」と郵便担当の宣教師が冗談めかして驚くくらいたくさんのクリスマスカードを送ってくださり、また背後に多くのお祈りが積まれていることを心より感謝申し上げます。先月のウェッシ先生が病院の多くの変化に触れながらも、やけどの範囲が広すぎて救命はできなかったけれども、イエスさまを信じて旅立たれた女性の例を挙げつつ、この点は変わっていない、また変わらずにいてほしい、これこそがこの病院の使命なのだからと話しておられたことを思いつつ、なおお祈りをよろしくお願いいたします。■

TAIWAN

台　湾

平瀬義樹・光世＊2016年1月7日

新しい年を迎えました。とは言え、こちらは、旧暦の新年（ことしは2月8日）までの年末の装い、期末テストの追い込みで猛勉強する学生方や大掃除に忙しくしている人々の姿があちこちで目に付きます。また、今週末に控えた総統・立法委員ダブル選挙を前に、嵐の前の静けさの感がします。この便りが皆さまの手元に届く時には、新しいリーダーたちが選出され、新しい体制が組閣されていることでしょう。難しい舵取りを政治や経済、教育面などにおいて迫られる中、正しく導いていくことができますよう、政治や経済、治安の安定の為に、更なるお祈りをお願いします。

大きな変動のあった2015年でしたが、振り返ってみると神さまの変わらない恵みとみ守りが豊かに取り囲んでいました。内外のあまりにも大きな動きと激しい流れに翻弄されて、そのこと自体が見えなくなった時もありましたが、主の恵みの御手は篤く置かれ続けていました。年末の証し会で、複数の兄弟姉妹が口々に「主の恵みはとこしえまで」と仰っていたのが強く心に残っています。昨年のクリスマス集会の後、27日の年末感謝礼拝、感謝愛餐・証し会、元旦家拝、そして3日の新年礼拝に続けて来会される方が数名起こさたことは、大きな感謝でした。

台南のクリスマス祝会には、80歳を越える年配のメンバーが勢揃いされました。その中には、お祈り頂いています蔡さんと陳さんもおられます。本人の気持ちは信仰へと固まりつつありますが、入信、洗礼にまではあと少しという段階です。特に、これまでの戦前、戦中、戦後を通過され、過去の色々な痛みや悔悟の念が一歩を踏み出そうとするときに、一つまた一つと想い起こされて、障害となっています。聖霊が心に語り続け、触れ続けてくださいますよう、引き続きお祈りをください。

新年の歩みのため、神さまはヘブル書一二章1節のみことばから「自分たちの目の前に置かれた競争を忍耐をもって走り続けるように」と語ってくださいました。

本年最初の台南日本語集会には、教会の日本語クラスやクリスマス祝会から続けて来会された方々も加えられています。「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」なお引き続きお祈りをお願い致します。■

ZAMBIA

ザンビア

富澤　香＊2016年1月6日

「わたしだ。恐れることはない。」（ヨハネ六章20節）

12月30日にザンビアへ赴任する予定でしたが、椎間板ヘルニアの治療中に骨粗鬆症が見つかり、その治療のために歯の治療が必要となりました。ザンビアで治療を致しますと400㎞離れたところへ通わなければならないため、急きょ、日本で治療させて頂くことになりました。赴任を延期したこと、大変申し訳なく感じております。しかし思いがけず、宣教地に出て以来、初めての祖国での年越しが許され、何とも言えない安堵を覚えています。

宣教師館につきましては、今年から建築士を交代して進めることになりました。建築費の不足に関しても続けてサポートを頂いておりますことに、大きな励ましを覚えております。日本において安静に務めながらも、様々なことを見、聞き、また体験させて頂いております。感謝とともに。■

■会計報告12月分

宣教献金　二、九七五、九〇〇円
月平均　一、五六〇、〇〇二円

お祈りの課題

香港（鹿島）
◆決心者が受洗の恵みに与れますように
◆今年の年間聖句（ピリピ一章27節・四章6節）に立ち続けることが出来ますように
◆日中関係が保たれますように

ケニア（蔦田就子）
◆看護学生の合格発表がなされた感謝
◆主任不在の期間が守られ支えられた感謝
◆正しい福音の伝達の為に病院が用いられ、AGCが異端から守られるように

台湾（平瀬）
◆新体制下での台湾の歩みのため政治や経済、治安の安定のため
◆個別開催の信仰入門クラスを持ち続けることができますように
◆家族の健康と生活のみ守りのため。明里の高校受験のため
◆2月21日の特集（インマヌエル那覇教会）の準備と祝福のため

ボリビア（三森）
◆リーダートレーニングが続きます。参加している13人の兄姉の霊的成長のために
◆締めくくりのすべてに主の御導きと守りがありますように
◆これからの世代交代のプロセスの上に、神様の祝福がありますように
◆私たちの霊肉の健康のため

カンボジア（蔦田緑乃）
◆地方に散らばって戦っている伝道者に救霊の力が増し加えられますように
◆ヴァンディー先生、グレッグ宣教師、マーク宣教師、のそれぞれの御働きに聖霊の御助けをお祈り下さい
◆後継者としての宣教師が起こされるよう引き続きお祈り下さい

ザンビア（富澤）
◆宣教師館プロジェクトのため
◆日本での治療のため

ザンビア（根廻）
◆巡回報告が守られ祝されるように
◆日本での時期に向けての整えが守られるように

フィリピン（豊田）
◆フィリピン神学校の学びのため（1～2月）。
◆来年3月から始まる第三期フィリピン宣教準備のため（3月9日出発予定）。
◆日本で留守を守る恭子と3人の子どもたちため

東京國際教会（蔦田康毅・由理）
◆クリスマスに受洗された9名の兄姉方の信仰の成長のため
◆4月に主牧に就任予定の諸長楽牧師夫妻の来日の準備のため
◆主牧不在期間の残る僅かな期間の奉仕が全うできるように

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

布石～「私は」の目線

院長●河村 従彦

「私は以前は、……」（Ⅰテモテ一・13）

不思議なように、あとからわかる神さまの恵みの導きがあるような気がします。プロの将棋をテレビで観戦したことがありますが、多少かじった程度の自分にはそれがなぜだかよくわからない序盤で端歩を突くことがあります。ところが終盤になって、その端歩が王さまの逃げ道を塞いでいるなど、威力を発揮していたりします。

モーセを見ると、エジプトでの業務上過失致死事件、ミデヤンでの四十年は、生涯の中で積極的な意味付けがしにくい出来事でした。ところが、神さまの展望は違っていました。エジプトでの失敗は自分を知る機会になり、何の展望もなく毎日を過ごしたミデヤンでの生活は、シナイ半島を知る実際面での備えになりました。

自分の失敗や弱さに向き合う体験は、みことばを共感的に分かち合うための布石です。そこが弱い解き明かしは恐いと、いつも自戒させられます。自分では気づかずに聞く側だけに変化を求め、聞いてくださる方は、「先生は、体験としてはご存じないのね」という印象を持つかもしれません。

どうしたら自分を棚に上げずに恵みを分かち合えるか、これが牧者のテーマです。自分が見えていること、その上で、負の面を含めて自分の素に正直であることは、それを必ずしもことばにして語る必要はないのですが、牧者として欠かせない資質なのでしょう。

自らのモラルが問われるような失敗、思い出したくないような経験すらイエスさまの恵みを分かち合うための布石にしていただける、本当にありがたいことです。イエスさまは、失敗や挫折などの負の体験を通して自分に向き合ったときにわかることが多いからです。十字架の前に立つとき、自分はエリートっぽくないだろうか、格好付けていないだろうかと問われます。わかった風な、霊的にスマートに振る舞う自分のありようは、十字架の前では息苦しすぎます。

BTCリトリートで　先生方にインタビューする証し会です

神学エッセー

説教について考えよう 1
説教はどうして必要なのか

内山　勝

説教学Ⅰの最初のクラスで、この質問を投げかけました。多くの神学生にとって、この質問自体が驚きだったようです。なぜなら、礼拝に説教は必ずあるので、あえて、なぜ必要かと問うたことがなかったからです。しかし、これを問うことによって、説教の本質、あるいは礼拝の本質に迫ることができると考えました。このように、私たちが考えることもなく行い続けていることに、あえて「どうして？」と問うのは重要なことです。

＊

さて、ジョナサン・エドワーズは、神さまは次の二つの方法で、被造物にご自身の栄光を顕されると教えています。

①人々が知性で理解できるように……ご自身を現される

②神ご自身が人々の心に語られる

時、また神が現してくださるご自身の姿を人々が楽しむときに……人々が神の栄光の現れを見るだけでなく、その中に喜びを見いだすことで、神は栄光を受けられる

＊

このように、真の礼拝には、常にこの二つの側面があります。すなわち、神を知性で理解することと、神を心から味わうことです。そして、この二つを分離することはできません。

神のことばが礼拝の中で「説教」という形態をとる理由は、真の説教は、その方法と目的において、知性と心の二つの側面を矛盾なくつなぎ合わせることができるからと、考えることができます。

エマオへの途上にあった二人の弟子は、甦りの主イエスさまの説教を聞きました。聖書全体から現れるキリスト像を知的に理解するにつれて、それに呼応するかのように、彼らの心が内に燃えてくるのを感じたというのです。遂に彼らは、目の前でみことばを説き明かしてくださっているそのお方こそが、甦りの主イエスご自身なのだと、眼が開かれたのです。これこそが、真の礼拝です。

ですから、説教は聖書研究の発表の場ではありませんし、また、会衆の感情に訴えかけて、ある種の満足感を与えるマッサージのような場でもありません。説教は、主の栄光に直に触れる場です。

しかし、どのようにしたら、知性と心に語りかける説教が可能となるのでしょうか。聖霊が働いてくださらなければ、絶対に不可能です。ですから、説教者は、徹底して遜って、聖霊に依り頼むことを学ばなければなりません。

◆学びを締め括るにあたり

主よ、感謝します

正規コース1年　大谷のぞみ

いつも、神学院のために、尊いお祈りと、サポートをいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。

神学院での学びがスタートして8か月が過ぎました。この8か月で学んだことは、私は無力、無能で構わない、それで当たり前、ということです。

入学するまで、牧師にはありとあらゆることが要求され、優秀にならなくてはいけないのだと思っているところがありました。だから、相当頑張って、この4年間で、訓練される必要があると意気込んで覚悟して、入学しました。もちろん、様々なことを要求されるのは事実でしょうし、つくりかえられ、訓練される必要はあるでしょう。しかし、何もできないからこそ、その中で、主が働かれ、周りの方が生かされ、主の教会が建て上げられていく。そのことを繰り返し教えられました。なぜ、私が召されたのだろう?と後ろ向きになることがあっても、「ふさわしくない者こそふさわしい」とおっしゃって下さる神さまであることを学びました。

入学前の年会で、数名の先生方が「頑張りすぎなくていいから、神学院生活を楽しんでね。」とおっしゃってくださいました。

その時は、どういうことだろう?楽しんでいて、学びや訓練になるのだろうか?と思ってしまいましたが、今は、なんとなくですが、先生方がおっしゃられた意図が分かる気がします。

落ち込む時も、感謝にあふれる時も、いつでも主がともにいて、祝してここまで導いてくださったこと、素晴らしい先輩方、同期の方々が与えられていることを、心から感謝しております。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」

（詩篇一〇三篇2節）

◆学びを締め括るにあたり

神学院で学んだこと

正規コース4年　大畑真紀子

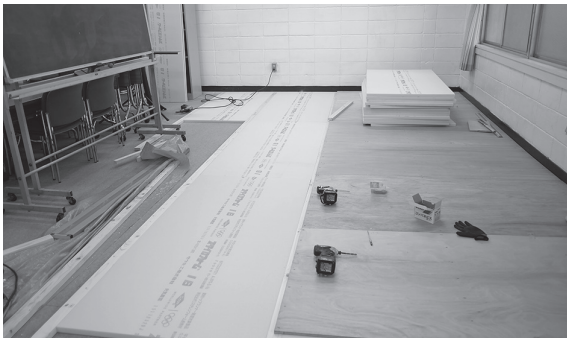
「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。……」

（ヨハネ二〇・21～22）

途中休学も含め6年間神学院でお世話になり、様々なことを体験させて頂きました。みことばの奥義を学ぶこと、伝道者の整えを期待して入学させて頂きました。学びが自分なりにまとまって、晴れて卒業になるのかと思っていました。ところが最後は、寮等の慣れない慌ただしさや信仰生活の先輩方である神学生方との学びや奉仕を通して、自分の限界と多様な信仰背景と考えを持つ方々の間で右往左往し、戸惑うことも多くありました。多彩な「人」を見て自分を見て焦っていました。あちらが気になり、こちらもやらなければ、でもこれもやりたい、という流されやすい自分自身の弱さ、安易さに改めて気づきました。

様々な人々がいて感情があって、願いがある中で、真実で恵み深い神さまの愛と、まことのいのちがこの世に届く方法、現実を先生方が様々な角度から熱心に教えて下さりディスカッションしました。効率だけを求めないことも分かりました。そしてこの神学院の学びを通し今確信できたことは、欠けのある働き人と教会を通して御国が前進していくためには、やはり聖霊のお働きなくしては何も起こり得ない、主を待ち、頼むということです。言葉にならない恐れや罪深さをいつも聖霊がとりなして認罪と平安へ導いて下さいました。

恐れで心を閉じている私のそばにイエスさまが来て、いのちの御霊を下さったこと、その素晴らしさをお伝えしていきます。多くの先生方、ご奉仕の皆様、神学生方、祈り支えてくださった方々に心から感謝を申し上げます。



教室の床に断熱材を入れる工事を行いました

◆学びを締め括るにあたり

私の助けは主から来る

正規コース1年　金成星美

主の御名を心から賛美いたします。私が神学院に入学してから一年が経とうとしています。この一年間が本当にあっという間の事でおどろいています。しかし、振り返ると思っていた以上に濃密な出来事で埋め尽くされた一年であったと気づかされました。主がここまでの歩みを導き支えてくださった事を思い起こし感謝でいっぱいです。

この一年間は、神学生として初めてのことが多くあり、私は社会経験もありませんから、足りなさを感じる部分も多く、落ち込んでは神様に励まされ奮い立たされての繰り返しであったように感じます。神学院でご指導くださっている先生方の学生時代や牧師として歩まれてきた今までのご経験などのお証しを伺いますと、そうしたことの繰り返しだということでした。私は一体いつまでこんなに足りないままなのかと思うような日々ですが、主の手の中で何度も壊していただき主の気に入られる器へと造りかえられ続けていきたいと思っています。

個人的な事ですが、大きな問題に悩み続けていた一年でもありました。しかし、みなさまのお祈りとサポートにより、素晴らしい環境の中で、神学院でのさまざまな学びがこうして守り導かれ、悩みの中にあっても平安が与えられ学びを続けることができました。

「私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。私の助けは、天地を作られた主から来る。」（詩篇一二一篇）

私の前には大きな山が立ちはだかっていましたが、その山よりもはるかに高く偉大な神様が助けを与えてくださいました。さらにこれからの学びも主だけを見上げ信頼して、全力を尽くして学びに励んでいきたいと思います。

私の神学生時代

二十世紀の「預言者学校」

4期生●三森春生

信仰生活は何とか3年半、インマヌエルの中枢、丸ノ内教会で模範的な信徒、青年会員のリーダー的存在という自負心もありました。個人宗教については、KGKの学内活動に加わって教会以上に厳しく訓練されていたつもりでした。キリスト教的環境もなく普通の地域教会も知らずに、ただ熱心さで導かれた献身でした。

「教会」についても「牧師」についても具体的な理解もイメージもなく、とにかく主のために何でもします、という献身でしたから、神学院の生活訓練、伝道者となるための教育、指導は、ほとんど想像を超えたものでした。教室での学びは、蔦田二雄院長が主任牧師であった丸ノ内教会で過ごしましたから、その延長としてすんなり受け入れることができたのは特権でした。デボーションや伝道実践（個人伝道や路傍伝道）もKGKの経験を生かすことができました。

戦後の教育環境で育った後輩方には相当抵抗があったようですが、男女交流の禁止も戦前教育を受けた我々の世代では、多少不自由さを感じる程度でむしろ当然でした。寮生活の規律にしても不自然とは感じませんでした。

私にとっての問題は、神の前にある一個のたましいである自分を教団という組織の中にどう位置付けるか、ということであったと思います。もちろん、そういう風に捉えるようになったのは、卒業・任命を受けてからでしたが。

院長は入学に際して、私の信徒時代の奉仕・活動などは一切断絶するよう厳命されました。入学後も学院の付属教会のような丸ノ内教会に継続してかかわることになったので、実際的には困難なこともありましたが、従うように最大限の努力をしました。

ところが、何と秋になって図書室整備のために奉仕をするよう命じられ、翌年春には月刊雑誌の編集発行実務を全面的に担わされることになり「これって一体なに？」と内心思いました。

半世紀以上経った今、すべてを通して神の御心が成されてきたと肯けますが、当時はただ、一歩一歩足元を照らす導きの光に忠実に従うことだけを考えました。それこそ信仰の実践修行でした。エリヤ、エリシャ時代の「預言者学校」もかくやと思わされます。

「私は知恵の道をあなたに教え、正しい道筋にあなたを導いた。」（箴言4・11）

同窓生の近況

36 期生

浦和教会●松井牧子

「しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。」（Ⅰテモテ一・16）

まさに罪人の頭である者が、主の召しを受け伝道者になって27年。一昨年9月よりセレブレーションオブラブ with フランクリングラハムの事務局に呼んで頂き、1年2か月間、水を汲むご奉仕に与り、私のような者に主が声をかけて下さった意味を教えて頂き、大会では正に水が葡萄酒に変わる主の奇蹟、御業、栄光を見せて頂きました。長女はカウンセリング担当オフィス・スタッフ、両親は祈祷委員、主人は会場係、長男は大会ボランティア、妹もアメリカより通訳として来日し、家族で主の働きに仕える出来事は大きな恵みでした。

「牧師らしくない」と言われ続けたキャラクターや経験を主が益に変え用いて下さり、召命の聖言の真実を経験させて頂き心から主に感謝致します。お祈りに感謝。

神学院スタッフ…恵みの想起

リトリートの恵み

女子寮監　河村みち

年末に行われたリトリートは、先生方、神学生、ボランティアの方々の愛の奉仕に支えられ、恵みのうちに終えることができました。リトリートでは、自分の心に向き合いながら、召されたことの意味を改めて確認しました。

教会に仕える召しは、自分の心の真実に向き合うことによって確かめられるのではないかと思います。教会を自分の思い通りにしたいという誘惑はたえずあります。ビジョンを語っても、それがエゴになることもあります。この意味で、与えられた務めが神さまからのものかを確かめることはとても大切ではないかと思います。これからの教会に仕える務めに召された方々ともこのことを共有できたらと願っています。コロ一・25

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、12月の会計報告をさせて頂きます。

12月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥876,065
教会団体による「神学院献金」
￥627,206
合計￥1,503,271

その他の献金（一時・特別）
￥149,310

・振替：00230-0-10138

学苑だより

●お祈りとご支援を感謝致します。

●教室床断熱材工事のご報告

昨年12月に行われたメンテナンス委員会において、今後のキャンパス管理について検討がなされ、緊急、短期、中長期に分けて課題がまとめられました。

中長期的課題には、2019年に迎える神学院創立70周年記念のことが射程に入っています。

緊急の課題として、長年の懸案であった教室とミニ・チャペルの寒さ対策が挙げられ、少し急だったのですが、冬の休講期に床断熱材工事を行いました。下からの底冷えが抑えられて、学びの環境が整えられたことを感謝しています。

●23日（火）からが補講週・テスト週、そして3月4日（金）が卒業式、7日（月）が入学審査です。お祈りをお願い致します。

●2月の神学院祈り会は9日（火）、午後6時からです。

公報

本部通達

「万軍の神よ。どうか、帰って来てください。天から目を注ぎ、よく見てください。そして、このぶどうの木を育ててください。また、あなたの右の手が植えた苗と、ご自分のために強くされた枝とを。」（詩篇八〇・14～15）

1月末の大切な教会総会を越えて各教会で良き教会年度の区切りと新たな進発がなされたことと存じます。新教会年度のすべての計画・方針・活動が導かれて参りますように、そして主の大いなる御業と栄光が拝される営みとなりますようお祈り申し上げます。

この時期は、殊の外、雪との戦いが厳しくなっている北国・雪国の地域の諸教会を覚えて、主のみ助けをお祈りしましょう。

■本　部

〈会議〉

《第71次年会　準備祈祷会開催》

1日（月）午後2時～3時半（OCC508会議室）

1日（月）～2日（火）拡大教団運営委員会（年会準備）

16日（火）会計監査

〈教区の特別プログラム〉

11日（火）近畿教区　教会学校教師講習会

東京教区デー

《JHA関係》

14日（日）遠州聖会

29日（月）関東JHA評議員会

■総務局

〈第71次年会の関連のお願い〉

年会は3月8日（火）午後5時（必着）～10日（木）午前11時半までの開催となります。航空券等を早めにご手配ください。本部で行われている最終的な準備のため、また先生方やご家族、信徒の方々の出入りのためにお祈りください。

▽教団ドメインのメールアドレス（@immanuel.or.jp、@igm21.com）の新規申込み、ご使用の先生方で変更・廃止、メーリングリストの希望、またご質問などがありましたら、本部総務局の佐藤信行師までご連絡ください。

▽近年「境内地・境内建物の登記謄本」の送付にご協力いただいていますことを感謝申し上げます。

提出後に変更のありました教会は、速やかに最新の謄本の提出をお願いします。本部では、被包括法人（全ての教会）の最新の権利関係を把握しておく必要がありますので、ご協力をお願いします。

■世界宣教局

▽昨年夏に椎間板ヘルニヤの治療のために緊急帰国したザンビアの富澤香宣教師は、検査治療・リハビリを終えて今月に再赴任の予定です。宣教師館建設も内装工事に入っていますが、最後まで完成することができるようにお祈りください。

▽帰国報告中の豊田常喜宣教師は、今月末にフィリピンのAPNTSで学びを終えた後、ご家族とともに3月9日（水）にフィリピンに再赴任の予定です。お祈りください。

▽昨年末に世界宣教局より「2016年台湾宣教訪問団」の募集案内を各教会にお送りしました。宣教地をよく知り、さらに深い祈りの和を築くため、また私たちの宣教の視野を広げ、交わりを通して励ましと恵みをいただくために、ぜひ実際に足を運んでいただきたいと思います。詳しくは、各教会に送付された案内と申込書をご覧ください。皆様のご参加をお待ちいたします。

〈IWF関係〉

▽各教会にIWF宣教師（ウェスレアン・WGM）を招聘する際に、費用補助を必要とする教会は、IWF会計より支援が可能です（上限4万円）。詳しくはIWF書記の梅田登志枝師までお問い合わせください。

■教育局

〈ユースステーション関係〉

◇第5回ユース・ステーション全国大会

日程・8月15日（月）～18日（木）

会場・奥多摩福音の家

講師・小坂嘉嗣師（日本宣教会・狭山キリスト教会牧師）

〈とにキャン関係〉

◇第9回全国中高生とにキャン

日程・8月9日（火）～12日（金）

会場・聖山高原キャンプ場

■聖宣神学院

▽神学院祈り会は2月9日（火）午後6時～7時、本部会議室で。祈りのためにぜひお集まりください。

▽卒業式は3月4日（金）午後1時30分からです。日程が一週間繰り上がりました。

▽入学審査は3月7日（月）、願書提出期限は2月22日（月）必着です。受験を考えておられる方は、間違いのないように手続きを行ってください。

《JEA関係》

▽災害対応チャプレン養成コース研修会が2月1日から3日まで行なわれました。岩上敬人師が講師の一人となりました。

▽第4回東日本大震災国際神学シンポジウムが2月29日から3月1日にOCCにおいて行なわれます。http://drcnet.jp からお申し込みください。

▽日本伝道会議の申込案内、①まもなく登録が可能となります（JEAで扱います）。②宿泊・交通に関する申し込み案内が届きましたら、期日までにお申し込みください（IGM本部で扱います）。

消息報告

▼岡孝子師（大阪伝法教会）のお母様岡利子姉が、昨年11月20日（金）に召されなさいました（88歳）。ご遺族にお慰めをお祈りください。

▼三森春生師（引退教師）の「ケアハウス主の園」の部屋番号が「215」から「311」に変わりました。

▼山口教会（平瀬聡樹牧師）では、これから新会堂建設に取り組まれる予定です。

▼沼津教会（小島聡牧師）で購入予定の隣接地のアパート解体工事が始まり、売買契約を行ないます。

山口教会と沼津教会、それぞれの会堂建設のためにお祈りください。

第71次年会スケジュール

日程・3月8日～10日

会場・国立女性教育会館ヌエック

▼3月8日（火）

16時　受付

17時　必着

18時30分　聖会Ⅰ

献児式、卒業生証し

▼3月9日（水）

9時15分　研修

①「ハラスメント」

②「危機対応」

③「交わりの神学」

13時30分　議事会

18時30分　聖会Ⅱ

卒業生証し

▼3月10日（木）

9時15分　聖会Ⅲ

教職按手式

任命式

教区主事会議

＊年会の集会はすべてオープンですので、信徒の方々もぜひご参加ください。

発行人　藤本　満　編集者　北田直人
発行所　東京都千代田区神田駿河台二―一　印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇　OCCビル　イムマヌエル綜合伝道団本部
新生宣教団　定価　一部一〇〇円（税込）
郵便振替　00110・7・133609